

「2. 5GHz 帯を使用する広帯域移動無線アクセスシステムの技術的条件」のうち「小電力レピータの技術的条件」について

1 審議開始の背景

広帯域移動無線アクセスシステム(BWA)の利用は、ノートPC等の情報端末が当面主流になると見込まれており、屋外のエリアのみならず屋内のエリア拡充にも期待が寄せられている。

このため、現在、鉄道駅構内、空港内等の公共性が高く、比較的規模の大きな施設内については、BWA事業者が基地局を設置しサービスエリア化を進めているが、ホテルのロビー、地下街の個別店舗等の比較的小規模施設、宅内及び鉄道・バスの車両内では、経済性や設置スペースの制約などから基地局の設置は困難である。こうしたニーズに応じて、利用エリアの拡大を迅速に実現するためには、携帯電話やPHSと同様に、安価でかつ迅速に設置が可能な小電力レピータを導入することが有効である。

こうした状況を踏まえ、広帯域移動無線アクセスシステム用小電力レピータの導入に向けた技術的検討(*)を開始するものである。

(*) 設置場所の自由度が増す小電力レピータと周波数が隣接するN-STAR移動局、地域WiMAX局及び小電力レピータ同士とが共用可能な技術的条件(空中線電力、スプリアス発射のレベル等)を定める。

2 審議体制

次の事項について、平成20年12月から情報通信審議会 情報通信技術分科会 広帯域移動無線アクセスシステム委員会(主査: 安藤 真東京工業大学大学院理工学研究科教授)にて審議を開始予定。

- (1) システムの要求条件(收容可能無線局数、包括免許のために具備すべき機能等)
- (2) システムモデルの設定
- (3) 他システムとの共用条件
- (4) 技術的条件

3 答申を希望する時期

平成21年6月頃

4 答申が得られたときの行政上の措置

関係省令等の改正に資する。

BWAに係る認定計画の概要

2545MHz

2575MHz

2595MHz

2625MHz



事業者	UQコミュニケーションズ	ウィルコム
通信方式	モバイルWiMAX	次世代PHS
主要株主	KDDI、インテル、JR東日本、京セラ、大和証券、三菱東京UFJ銀行	カーライル、京セラ、KDDI
サービス開始時期	2009年2月28日 (東京23区、横浜市から開始)	2009年4月 (東京 山手線の内側から開始)
特定基地局の開設数、人口カバー率など	<ul style="list-style-type: none"> ・2013年3月末までに約19,000局の基地局を開設予定 ・屋内用基地局19,000設備を開設予定 ・2013年3月末までに全国の人口カバー率93%、1,161市町村でのサービス提供を予定 	<ul style="list-style-type: none"> ・2013年3月末までに約20,000局の基地局を開設予定 ・屋内用基地局7,000局を開設予定 ・2013年3月末までに全国の人口カバー率92%、846市町村でのサービス提供を予定
事業概要	設備投資 1,323億円 加入数 約500万加入 営業収益 1,243億円 (※いずれも2013年3月末までの累計)	設備投資 1,113億円 加入数 約240万加入 営業収益 1,488億円 (※いずれも2013年3月末までの累計)

小電力レピータの適用イメージ

